

令和7年度 測量士試験 問題と解答 午前 No26 (応用測量)

<R07-No26 : 応用測量 (用地) : 問題>

次の1～5の文は、公共測量における用地測量について述べたものである。明らかに間違っているものはどれか。次の1～5の中から選べ。

1. 公図等転写連続図の作成において、隣接する公図間で字界の線形に相違がある場合も、接合部を合致させるための調整はせず、公図に記載されている字界をそのまま転写する。
2. 復元測量において、復元すべき位置に仮杭を設置する場合は、関係権利者への事前説明を実施する。この場合、原則として関係権利者による立会いは行わない。
3. ネットワーク型 RTK 法による境界測量では、1セット目の観測終了後に再初期化を行い、2セット目の観測を行う。境界点の座標値は両セットの観測から求めた平均値とする。
4. 用地境界仮杭設置において、視通が確保できる場合、視通法により道路計画中心線と境界線の交点に用地境界仮杭を設置することができる。
5. 面積計算では、境界測量の成果に基づき、各筆等の取得用地及び残地の面積を算出し面積計算書を作成する。この計算は、原則として座標法により行う。